

真言宗醍醐派

別格本山 塩船観音寺

神住まう青梅の地に
時世を経て、たのしび宴

SOMANOHO NO UTAGE

柚保の宴

そまのほ

～戦国時代の伝統文化と三田氏の隠された謎～

2018年7月7日(土) 10:00～17:00

今から500年前、武蔵国の青梅地域は「柚保(そまのほ)」と呼ばれていました。「柚」は木材を切り出す山、「保」は荘園などの所領の意味があり、そこに住む人々は古くから自然と共生して生活をしたそうです。当時この地域一帯を治めていたのは勝沼城主である「三田氏」という豪族で、武士でありながらも連歌や風流を嗜む文化人であったといわれています。

1509年、京都より一流の連歌師である「柴屋軒宗長(さいおくけんそうちょう)」が勝沼城を訪れました。連歌師によって開かれる連歌会は戦国時代では情報交換の場とされ、当時の重要な情報源であったとされます。この塩船観音寺で何度となく華々しい連歌会が執り行われたのではないのでしょうか。

そして、今年もこの日限りの「柚保の宴」を開催します。



探す!

宝探し

聞く!

演奏

見る!

個展・体験

読む!

俳句展示

食す!

飲食スース

楽しむ!

行列寸劇

体感!

お囃子

